

## ■ 本文

神無月のころ、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里に〔①〕尋ね入ること侍りしに、遙かなる苔の細道を踏み分けて、心ぼそく〔②〕住みなしたる庵あり。木の葉に埋もるる懸樋の雫ならでは、つゆ〔③〕おとなふものなし。闕伽棚に菊・紅葉など折り散らしたる、〔④〕さすがに、住む人のあればなるべし。

かくても〔⑤〕あられけるよとあはれに見るほどに、かなたの庭に、大きな柑子の木の、枝もたわわになりたるが、まほりを〔⑥〕きびしく囲ひたりしこそ、少し〔⑦〕ことさめて、〔⑧〕この木なからましかばと〔⑨〕覚えしか。

## ■ 設問 (全22問)

- 傍線部①「尋ね入る」の意味として最も適切なものを選びなさい。  
ア 訪ね歩いて中へ入る イ 質問しながら進む ウ 探し求めて帰る エ 道に迷って入り込む
- 傍線部②「住みなしたる」を現代語訳しなさい。また「なし」の文法的意味を説明しなさい。
- 「木の葉に埋もるる懸樋の雫ならでは、つゆおとなふものなし」を現代語訳しなさい。なお「つゆ……なし」の呼応にも注意すること。
- 「ならでは」の意味・用法を説明しなさい。
- 傍線部③「おとなふ」の本文中での意味を答えなさい。
- 傍線部④「さすがに」の意味として最も適切なものを選び、現代語の「さすがに」との違いに触れて説明しなさい。  
ア それでもやはり イ 非常に立派に ウ 予想どおり エ 言うまでもなく
- 「あればなるべし」を現代語訳し、「なる」「べし」のそれぞれの文法的意味を答えなさい。
- 傍線部⑤「あられけるよ」を、主語を補って現代語訳しなさい。
- 傍線部⑤「あられけるよ」の「られ」の文法的意味（助動詞の種類）を答えなさい。
- 作者が庵のたたずまいを見て「あはれ」と感じたのはなぜか。本文に即して説明しなさい。また、ここでの「あはれ」が表す心情を簡潔に答えなさい。
- 傍線部⑥「きびしく」は、ここではどのような様子を表しているか。現代語の「厳しい」との意味の違いがわかるように説明しなさい。
- 本文中の「囲ひたりしこそ……覚えしか」には係り結びが用いられている。係りの助詞と結びの語を抜き出し、結びがその活用形になる理由を説明しなさい。
- 傍線部⑦「ことさめて」の意味を答えなさい。あわせて、この語の終止形を記しなさい。
- 傍線部⑧「この木なからましかば」を現代語訳しなさい。
- 傍線部⑧「なからましかば」について、次の問いに答えなさい。  
(1) この「ましかば」が表す文法的な表現（構文）の名称を答えなさい。

(2) この構文は、ふつう下に「…まし」を伴って「もし～だったら、…だろうに」という意味を表す。本文ではこの「…まし」にあたる部分が省略されている。省略された内容を補い、全体の意味を現代語で説明しなさい。

16. 傍線部⑨「覚えしか」の「しか」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「しか」は何という助動詞の活用形か、終止形と活用形の名称を答えなさい。

(2) この「しか」が已然形になっているのはなぜか。文法的に説明しなさい。

17. 作者が柑子の木を見て「少しことさめて」しまったのはなぜか。三十字以内で説明しなさい。

18. この段から読み取れる作者の美意識として最も適切なものを選びなさい。

ア 自然をありのままに残すより、人の手で整えた庭こそ美しい。

イ 俗世の欲をうかがわせるものがなく、閑寂であることにこそ趣がある。

ウ 果実が豊かに実る庭は、生活の豊かさを示していて好ましい。

エ 人が住んでいる気配のない、完全に無人の庵こそ理想である。

19. 柑子の木そのものではなく、「まほりをきびしく囲ひたりし」点が作者の興をそいだと考えられる。その理由を、作者の価値観に触れて説明しなさい。

20. 『徒然草』について、次の問いに答えなさい。

(1) 作者名を漢字で答えなさい（法名でよい）。

(2) 成立した時代を答えなさい。

(3) ジャンル（文学形式）を漢字二字で答えなさい。

21. 『徒然草』は、平安時代に成立したある作品とともに「随筆」の代表とされる。その平安時代の作品名と作者名を答えなさい。

22. 次のうち、本文の内容に合致するものをすべて選びなさい。

ア 作者は神無月のころ、山里の庵をたまたま通りかかって立ち寄った。

イ 庵の懸樋の雫の音のほかは、ほとんど物音がしなかった。

ウ 闕伽棚に花や紅葉が散らしてあったので、作者は無人の庵だと判断した。

エ 作者は柑子の木の囲いを見て、はじめからこの庵に失望していた。

オ 柑子の木を見るまで、作者は庵のたたずまいに心を動かされていた。